

A級ディンギー普及史

日本A級ディンギー協会 初代会長 白幡 寛

1932年（昭和7年11月21日）日本ヨット協会の設立

昭和の初期から日本各地でセーリングが盛んになり、九州帝国大学OB会、琵琶湖ヨット倶楽部、神戸外人クラブ、横浜外人クラブ、東京商船学校OB会、慶応三田ヨット倶楽部等々のクラブが国内5メートルクラス艇、その他ヨットで活躍していた。特に慶応三田ヨット倶楽部は昭和7年3月に本格的国際オリンピック規格の「スター級」を進水させている。

これらの国内ヨットクラブの活動を統合して「日本ヨット協会」が設立された。

「日本ヨット協会」が発足して、国内レースの振興とヨットマンの育成を目的として、1912年英国人Cockshott設計の12フィートディンギーの製造権を導入した。公認艇「国際A級12フィートディンギー」の国内建造が始まった

日本ヨット協会が導入した Cockshott の12フィートディンギーはどんな艇？

1912年英国「BRA」(Boat Racing Association) が主催した、「大型船に搭載でき」また、「クラブレースに使用できる」多目的艇の設計競争入札にCockshottの12フィートディンギーが優勝した。英国では「BRAディンギー」とも呼ばれている。

LOA: 12 feet, LBP: 4 feet/8 inch, DEP: 1 feet/8 inch, Sail-Area: 100 sq feet. 外板クリンカー張りの木造小型 Sailing/Rowing・Dinghyで、英国の多くのセーリングクラブで使用され、また、「1921年 アントワープ・オリンピック」、「1928年 アムステルダム・オリンピック」で活躍した名艇。

日本、イタリー、オランダのディンギー協会が製造権を導入して、多数国内建造されている。また、日本始め、欧州各国で12フィートディンギーの大会が盛んに開催されている。

最初に行われた Cockshott 12フィートディンギーの レース

英国西部Marine湖にある 名門「West Kirby Sailing Club」(WKSC)が 1912年に6艇を建造、1913年10月各地から12セーリングクラブを集め、最初のレースを開催した。レース方法は、12クラブを先ず6クラブに絞り、更に3クラブに絞って優勝争いをした。

優勝は Cockshottが自らスキッパーで活躍した Southport Sailing Clubで (WKSC) から純銀製の立派なカップが授与された。100年後 Cockshott家から この純銀製のカップが寄贈され、欧州各地で「Cockshott Trophy Race」が盛大に行われている。

Cockshottの12フィートディンギーが 日本に導入された経緯

1930年頃、日本ヨット界の父、小澤吉太郎氏が親しく師事していた商船学校校長 関谷健哉先生から、1928年アムステルダム・オリンピックで活躍した、英国人Cockshottの設計、12フィートディンギーが取扱い易く、帆走性能も良く、価格もてごろなので、ヨットマン育成の為、日本に導入したらとの指導を受け、日本ヨット協会を設立に際して、製造権を導

入、日本の公認レース艇として広く国内建造を進めた。

A級ディンギーの名前の由来は？ イタリア、オランダの名前は？

1932年（昭和7年）日本ヨット協会が設立され、Cockshot tの12フィートディンギーの製造権を導入した際、契約書、仕様書、工作図面の表題に

（“A” -Class One Design Dinghy）と書かれていた。この“A” -Classをそのまま「A級」と訳し、A級ディンギーの愛称で呼ぶようになった。設計者 Cockshot tがつけた“A”をそのまま使っているのは日本だけ、同じように製造権を導入したイタリア、オランダの愛称、正式名は下記の通り。

Cockshot tの命名	愛称	正式名
日本ヨット協会	A級ディンギー	国際A級12フィートディンギー
イタリア・ディンギー協会	12Pディンギー	Italiana Classe Dinghy 12P
オランダ・ディンギー協会	12VTS ディンギー	Nationale 12VTS Jollen Klass

1933年（昭和8年9月）第1回 全日本ヨット選手権大会

日本ヨット協会が初めて【全日本ヨット選手権大会】を東京品川沖で開催した。競技種目は「A級ディンギー」と、国内クラブが使用していた2枚帆スloop「国内5メートル級」で争われた。「A級ディンギー」は同志社吉本善多氏が優勝、「国内5メートル級」は三田ヨット倶楽部の「初風号」が優勝した。

1933年（昭和8年11月）第1回 全日本学生ヨット選手権大会

明治神宮体育大会（神宮大会）第7回大会に初めて「ヨット競技」が加えられた。「A級ディンギー」の国内建造が進み、全国大学ヨット部の活動が盛んになって来たので、神宮大会ヨット競技として「第1回全日本学生ヨット選手権大会」が東京品川沖で開催された。この時代のセールには“A”のマークは無く、物凄く大きい数字だけがつけられていた。

慶応大学、同志社、大阪帝大、九州帝大、東京帝大、早稲田大学、名古屋医大、関東学院が参加した、慶応大学平松栄一組が優勝。

1937年（昭和12年6月）関東学生ヨット連盟（関東学連）の発足

「A級ディンギー」関東インカレ出場校、慶応大学、早稲田大学、東京大学、関東学院、商船学校の5校が集まり、関東学生ヨット連盟（関東学連）を発足させた。

続いて、法政大学（昭和12年）、日本大学（昭和13年）、東京水産（昭和13年）明治大学（昭和18年）が加盟した。更に戦後になり、立教大学（昭和22年）中央大学（昭和24年）が関東学連に加盟、その後各大学のヨット部が続々誕生、

関東学連に加盟が続いている。

1940年（昭和15年）

横浜新山下町にオリンピック・ハーバーが完成した。
支那事変の為、第12回 オリンピック 東京大会の中止が決定した。

1944年（昭和19年）

太平洋戦争の為すべてのヨットレースが中止になった。

太平洋戦争終戦後の A級ディンギー

1945年（昭和20年8月）太平洋戦争終戦 米軍の進駐が始まった。

多数のA級ディンギーが進駐軍のブルドザーで海に捨てられた

8月、米軍の進駐が始まり、オリンピック・ハーバーを含む横浜山下町一帯が進駐軍に接收された。ヨットハーバーに収納されていた各大学のA級ディンギー多数が 米軍のカマボコ兵舎群建設の為ブルドザーで海に捨てられるのを当時関東学院ヨット部2年生だった私はなすすべも無く茫然と見ていた。

1946年（昭和21年9月） 戦後初めてのヨットレース 東西学連対抗

戦後の厳しい混乱時期にも拘わらず日本ヨット協会の動きは速かった。
終戦の翌年9月には琵琶湖柳が崎にA級ディンギーを集め、東西学連対抗が行われた。
終戦直後、まだ、東京、横浜が焼野原の時代であり、琵琶湖のレースの帰りに焼けていない京都の街並みが嬉しく、四条通、烏丸通りなどを上り、下り、足が痛くなるまで歩いた記憶が懐かしい

1946年（昭和21年11月） 国民体育大会 ヨット競技の始まり

1946年（昭和21年） 第1回大会琵琶湖、大型観光船を浮かべ選手、役員、観衆多数が乗り、レースが行われた。

1947年（昭和22年） 第2回大会 石川県七尾湾 宿舍 和倉温泉 加賀屋。
大会宿泊料金 250円/日

1948年（昭和23年） 第3回大会 九州博多湾 志賀島。 A級ディンギーと初めてスナイプが使用された。

1949年（昭和24年） 第4回大会 横浜オリンピック・ハーバー。

1950年（昭和25年） 第5回大会 愛知県 半田市。

爾来 毎年各地持ち回りで 国民体育大会（國体）が開催されて来た。そして、今年、2015年（平成27年）は 第70回「紀の国わかやま国体」が開催される。

国民体育大会から A級ディンギーが消えた

1962年（昭和37年）第16回 岡山県玉野渋川大会
FRP艇の採用が進み、すべての国体ヨット競技種目からA級ディンギーが消えた。

インターカレッジから A級ディンギーが消えた

1972年（昭和47年）470級がオリンピックに採用されたのを機会に、インターカレッジも A級ディンギーを470に替えることになった。

A級ディンギーの冬眠

想えば、1962年 第16回国体でA級ディンギーが消えてから29年間、1972年470採用でインターカレッジから消えてから20年間、A級ディンギーは大会も無く、ただただ艇庫の裏で眠り続けていた。

しかし A級ディンギーは 不死鳥のように蘇った

1991年（平成3年）クリンカーの波切り音を想いだしたA級ディンギーの仲間達が逗子湾に A級ディンギー7艇を集め 第1回 A級大会を行った。そして、1994年（平成6年）第4回大会で北海道、九州、琵琶湖、関東水域から15クラブ、15艇、160人を集め 初めて「全日本A級選手権大会」を行った。第5回琵琶湖、第6回八景島、第7回津軽海峡を渡って函館と、艇数も選手も増え、家族、お友達も参加する「楽しい大会」として成長し続けて25年、2015年（平成27年）には 第25回 「全日本A級ディンギー選手権 西宮大会」が 40クラブ、57艇、選手・家族・役員約400人が参加して盛大に開催された。
以上

「A級全日本」を 欧州に紹介した 「国際12フィートディンギー協会」

日本A級ディンギー協会 初代会長 白幡 寛

International 12feet Dinghy Class Association とは???

「国際12フィートディンギー協会」と訳し、以下「国際協会」と記す。

2006年5月 イタリーPortofino大会終了後、参加7か国の選手、役員が集まり、
「12フィートディンギーの普及、国際化を促進する」「各国12フィートディンギーが 平均した性能でレースをする」を決議事項として「国際協会」が発足した。

「国際協会」から 日本12フィートディンギー・レースのことを知りたいとの連絡があり、「A級全日本 2006年 江の島大会」のレポート、写真、ビデオを送ったが更に 「A級全日本の歴史、生立ち」を知りたいとの要請があった。

そこで、2007年1月に 添付 「12-foot Dinghy Race in Japan」を作り、「A級ディンギーの生立ちや名称」「470の採用でA級ディンギーが冬眠に入ったこと」「1991年A級ディンギー7艇で 全日本が始まったこと」「帆走重量140kgのこと」「国際ルール適用のこと」等々を説明して、「国際協会」「イタリー・ディンギー協会」「オランダ・ディンギー協会」に提出した。

「国際協会」はホームページに、2006年から2009年までの「全日本A級ディンギー選手権大会」のレポート、成績、写真、を載せて、欧州12フィートディンギー仲間に紹介してくれた。今でも「JAPAN」ページを開くと「2009年 全日本A級ディンギー選手権 横浜大会」のレポート、写真を見ることができ、また、「2008年 葉山大会」には 三田A級ディンギー倶楽部の奥さま達の写真が見られる。イタリー・ディンギー協会は2010年年鑑に「日本A級ディンギーの特集」を載せてくれている。

「A級全日本」の長い歴史に比べれば、わずか5-6年の短い間であったが、「日本A級ディンギー協会」(JADA)発足間もない頃であり、欧州のディンギー仲間との交流がいろんな意味で参考になり、力になったことを懐かしく想いだしている。